

令和5年度

保健福祉学部附属診療センター

年報

目次

I 年度目標と実績

II 診療実績

III 教育実績

IV 研究業績

V 従事者名簿

令和5年度目標と実績のまとめ

目標

- ①医療機関としての安全管理体制整備
 - ★安定的な体制維持のための診療機能の検討
 - ★適切な業務体制の確立(センター長の補佐)と診療体制の整備(看護師の採用)
 - ★感染症等の迅速な情報収集と対策の実施
 - ★医療安全のための定期研修, 定期点検の実施, 安全対策の周知
 - ★個人情報の適切な管理
- ②教育および研究のための体制の充実
 - ★学生の学内実習・見学の実施
 - ★学外者研修受け入れ
- ③今後の役割と施設機能の方向性の検討
 - ★業務内容の透明化
 - ★備品の計画的な更新
 - ★広島県地域リハビリテーションサポートセンターとしての地域貢献
 - ★積極的な附属診療センターの広報

実績

- ①医療機関としての安全管理体制整備
 - ◆診療実績
 - 初診患者(38名), のべ患者数(2,037件), リハビリテーション(1,036件)
 - ◆診療センター規定の改正
 - ◆診療センター長補佐の設置, 看護師の新規採用
 - ◆新型コロナウイルス感染症対応(感染予防と診療機能維持の併行)
 - ・感染症対策として, 検温, 消毒, 問診の徹底, 他者との接触の回避, 電話診療の実施
 - ◆安全対策のための研修会等の実施
 - ・転倒予防対策, ヒヤリハット事例への対応
 - ・診療用放射線の安全利用研修の実施
 - ・医療安全研修会の実施
 - 「病院前診療(ドクターカー・ドクターヘリ)における医療安全(7月26日)」
愛媛大学大学院医学系研究科救急航空医療学講座 教授 竹葉淳先生
 - 「アサーション・トレーニング:コミュニケーションを考えるヒントとして(12月13日)」
県立広島大学コミュニケーション障害学コース 准教授 長谷川純先生
 - ◆コソコソ健康増進号の診療センター備品化と利用促進(出勤回数:29回 測定人数:延べ690名)
- ②教育および研究のための体制の充実
 - ◆コミュニケーション障害学科・作業療法学科・理学療法学科臨床実習施設としての教育実績
 - 学内実習(64名), 学内者見学(541名), 学外者見学(9名)
- ③今後の役割と施設機能の方向性の検討
 - ◆備品の計画的な整備・更新(知能検査用具, 感覚統合器具等)
 - ◆広島県地域リハビリテーションサポートセンター指定施設(平成30年1月1日より継続中)
 - 三原市リハビリテーション会議にリハ助言者として出席(1回)
 - 住民運営の通いの場への人材派遣 4回
 - ◆附属診療センターの広報(本年度はWEB配信にて実施)
 - 感染流行下での業務体制のお知らせ, オープンキャンパス等の実施
 - 公開講座の実施
 - ・「医療福祉職の仕事とは」(令和5年5月13日)
 - ・「病氣と向き合う医療福祉職」(令和5年9月2日)
 - ・「病氣と向き合う医療福祉職」(令和5年12月2日)
 - ・「医療福祉職の仕事とは」(令和6年3月2日)
 - ◆年報の作成と公表

来年度計画

- ①医療機関としての安全管理体制整備
 - ★確実な診療体制の構築
 - ★医療安全のための定期点検・安全対策の周知
 - ★感染症等の迅速な情報収集と対策の実施
 - ★個人情報の適切な管理
 - ★健全な経営・コスト意識の浸透
- ②教育および研究のための体制の充実
 - ★学生の学内実習・見学の積極的な実施
 - ★学外者の研修の積極的な受け入れ
- ③今後の役割と施設機能の方向性の検討
 - ★業務内容の透明化
 - ★備品の計画的な更新
 - ★広島県地域リハビリテーションサポートセンターとしての地域貢献
 - ★附属診療センターの広報の拡大(受験生及び地域住民向け公開講座等)

令和5年度統計

①地域別

地域	初診	再診	実人数	のべ人数
三原市	21	197	218	1228
尾道市	6	69	75	402
広島市	2	11	13	64
福山市	1	41	42	149
呉市	0	2	2	15
世羅郡	1	1	2	24
竹原市	2	5	7	52
東広島市	1	4	5	25
府中市	0	2	2	5
安芸郡	0	3	3	25
神石郡	0	1	1	2
岡山	0	2	2	12
山口	2	2	4	12
島根	1	0	1	3
関西	1	1	2	13
関東	0	1	1	6
合計	38	342	380	2,037

③初診患者の主診断名

診断名	人数
自閉スペクトラム	0
知的障害	0
注意欠陥多動障害	0
その他の小児神経疾患	1
発声・嚥下・構音障害 吃音	16
難聴	12
その他の耳鼻科疾患	1
高次脳機能障害	1
脳血管障害	1
脊髄・神経・筋疾患	3
精神科疾患	0
骨粗鬆症	1
認知症	2
その他	0

②年齢別

年齢	初診	再診	実人数
3歳未満	5	2	7
3歳	1	1	2
4歳	0	3	3
5歳	1	3	4
6歳	1	11	12
小1	1	10	11
小2	1	16	17
小3	0	11	11
小4	0	21	21
小5	0	18	18
小6	0	19	19
中1	0	22	22
中2	0	16	16
中3	0	22	22
高校生	1	34	35
19歳～20歳	2	14	16
21歳～30歳	3	13	16
31歳～40歳	2	11	13
41歳～50歳	2	15	17
51歳～60歳	3	19	22
60歳以上	15	61	76
合計	38	342	380

Ⅲ 教育実績

【授業・見学】

科目名	学年	人数	期間	回数	内容
神経障害理学療法学演習 (理学療法学コース)	3	33	11月	1	理学療法学科3年次生を対象とし、本学では診療所にのみ設置されている免荷装置付きトレッドミルを利用した長下肢装具歩行を全員が体験をした。先端的リハとして実施されている脳卒中片麻痺患者に対する長下肢装具歩行による治療について理解を深めた。
卒業研究 (作業療法学コース)	3	1	12月	1	視覚に障害がある脳性麻痺のあるクライアントの協力を得て、鍵盤ハーモニカの演奏を見学し、視覚障害のある子どもが把握しやすい楽譜について検討を行った。
総合臨床実習 (作業療法学コース)	3	1	1～3月	3	総合臨床実習を控えた学生の準備学習として、作業療法の評価や介入場面の見学を行った。
科学と医学 (理学療法学コース、作業療法学コース、コミュニケーション障害学コース、人間福祉学コース)	1	104	6月	2	理学療法学コース、作業療法学コース、コミュニケーション障害学コース、人間福祉学コースの1年生を対象として、本診療センターを紹介した。
発達系障害学演習Ⅳ (コミュニケーション障害学コース)	3	28	12月～1月	4	コミュニケーション障害学コース3年必修科目の演習において、診療センター患者を元にして作成された事例資料を使って演習を行った。(知的障害・自閉症併存事例、小児高次脳機能障害事例、軽度知的障害事例)
発達系障害学演習Ⅲ (コミュニケーション障害学コース)	3	28	6月～8月	5	コミュニケーション障害学コース3年必修科目の演習の臨床推論事例、学習障害の支援演習の事例を診療センター患者の検査データを改変して演習を行った。
発達系障害学演習Ⅱ (コミュニケーション障害学コース)	3	28	4月～6月	7	コミュニケーション障害学コース3年必修科目の演習において、K-ABC2の検査演習および、限局性学習症事例の評価演習のために診療センター患者の検査データを改変して演習を行った。
発達系障害学演習Ⅰ (コミュニケーション障害学コース)	2	30	9月～11月	8	コミュニケーション障害学コース2年必修科目の演習において、新版K式発達検査、田中ビネー検査、STRAW-R、Rey複雑図形検査、WAVESの諸検査の演習にあたり、診療センター患者の検査データを改変して演習を行った。
認知系障害学概論Ⅱ (コミュニケーション障害学コース)	2	28	2Q	1	コミュニケーション障害学コース2年次生を対象とし、実際の症例への言語聴覚療法の実施動画を視聴しながら、失語症例の症状や特徴を学習した。
発達系障害学演習Ⅰ (コミュニケーション障害学コース)	2	30	3Q	8	コミュニケーション障害学コース2年必修科目の演習において、新版K式発達検査、田中ビネー検査、STRAW-R、Rey複雑図形検査、WAVESの諸検査の演習にあたり、診療センター患者の検査データを改変して演習を行った。
発達系障害学演習Ⅱ (コミュニケーション障害学コース)	3	28	1Q	7	コミュニケーション障害学コース3年必修科目の演習において、K-ABC2の検査演習および、限局性学習症事例の評価演習のために診療センター患者の検査データを改変して演習を行った。
発達系障害学演習Ⅲ (コミュニケーション障害学コース)	3	28	2Q	5	コミュニケーション障害学コース3年必修科目の演習の臨床推論事例、学習障害の支援演習の事例を診療センター患者の検査データを改変して演習を行った。
発達系障害学演習Ⅳ (コミュニケーション障害学コース)	3	28	4Q	4	コミュニケーション障害学コース3年必修科目の演習において、診療センター患者を元にして作成された事例資料を使って演習を行った。(知的障害・自閉症併存事例、小児高次脳機能障害事例、軽度知的障害事例)
認知系障害学概論Ⅰ (コミュニケーション障害学コース)	2	28	1Q	8	失語症のある患者さんと言語聴覚士のコミュニケーション場面の映像を、ご本人・ご家族のご協力のもと授業で活用した。

Ⅲ 教育実績

【授業・見学】

科目名	学年	人数	期間	回数	内容
認知系障害学概論Ⅱ (コミュニケーション障害学コース)	2	28	2Q	2	言語障害者に対するスクリーニング場面の理解のため、失語症などの言語障害のある患者さんの検査場面などの映像を、ご本人・ご家族のご協力のもと教材として活用した。
認知系障害学演Ⅰ(診断) (コミュニケーション障害学コース)	2	28	3Q	6	失語症のある患者さんに対する、標準失語症検査などの実施場面を、ご本人・ご家族のご協力のもと教材として活用した。
認知系障害学演習Ⅱ(評価) (コミュニケーション障害学コース)	3	26	1Q	2	高次脳機能障害のある患者さんの症状や検査場面をご本人・ご家族のご協力のもと教材として活用した。
認知系障害学演Ⅳ(総合・地域) (コミュニケーション障害学コース)	3	26	4Q	4	各担当教員が、診療センターで言語聴覚療法を担当する失語症などの(デフォルメした)データに基づき、個別訓練や集団訓練計画を立案・デモンストレーションを実施した。その後、実際の訓練場面をご本人・ご家族のご協力のもと提示した。
コミュニケーション障害学演習 (コミュニケーション障害学コース)	1	31	2Q～4Q	1	附属診療センターを利用する失語症などがある方の中で、ご協力いただける方を対象に、学生との交流会を企画・実施した。その準備としても、訓練場面などをご本人・ご家族のご協力のもと活用した。
コミュニケーション障害学診断法 (コミュニケーション障害学コース)	2	28	3Q～4Q	4	ビデオで提示する事例(小児)について、ご本人、ご家族のご協力のもと、本診療センター内施設を利用して作成し、教材として活用した。
ケアマネジメント (コミュニケーション障害学コース)	2	5	1Q	1	多職種(コミュニケーション学コース以外)の学生が、失語症などの理解を深めるために、ご本人・ご家族のご協力のもと教員(言語聴覚士)との会話場면을教材として活用した。
拡大・代替コミュニケーション特論 (コミュニケーション障害学コース)	4	16	1Q	3	発語以外の拡大・代替コミュニケーション手段を使用している、言語聴覚療法場面をご本人・ご家族のご協力のもと活用した。
医療ソーシャルワーク (人間福祉学コース)	2	40	12月5日(火)5 限に20名、12月 7日(木)5限に20 名	2	2グループに分かれて診療センターの見学を行い、本科目で学んだ病院・診療所の機能や医療専門職の役割、チームの中の医療ソーシャルワーカーの役割等の理解の一助とした。

【実習】

科目名	学年	人数	期間	回数	内容
基礎臨床実習1 (作業療法学コース)	1	31	1月	1	作業療法学コース1年生を対象に、附属診療センターの役割と意義、実際の利用者の概要について、見学と説明を行った。
臨床実習Ⅲ (コミュニケーション障害学科)	4	27	通年	14	附属診療センター神経内科(原田医師)の診療現場にて対面の診察の見学を行い、事後に原田医師から説明や質問を受け、それに応答し見学場面で観察できたことや考察した点についてレポートを作成した。
臨床実習Ⅲ (コミュニケーション障害学科)	4	29	1Q~3Q	15	神経内科外来診察(原田医師)に学生が1~2名ずつ同席し、見学実習を行った。
臨床実習Ⅲ (コミュニケーション障害学科)	4	28	1Q~2Q	14	耳鼻咽喉科外来診察(田口医師)に学生が1~2名ずつ同席し、見学実習を行った。
臨床実習Ⅲ (コミュニケーション障害学科)	4	28	2Q	10	小児科外来診察(林医師)に学生が1~2名ずつ同席し、見学実習を行った。
臨床実習Ⅱ (コミュニケーション障害学科)	3	28	通年	111	言語聴覚障害のある患者さんに協力いただき、言語聴覚療法についての評価、計画立案、言語聴覚療法の実施、報告書作成などを内容とする実習を、学生1人につき年間8回(ケースカンファレンス2回)実施した。(対面、オンライン)
臨床実習Ⅰ (コミュニケーション障害学科)	2	29	2Q~4Q	31	学生2~3名が1組となり、言語聴覚療法の見学を1組あたり年間3回実施した。

【卒業研究】

卒業論文タイトル
慢性疾患児が主体的な療養行動を獲得する原動力に関する文献検討（看護学コース）
NICUIに入院した児の親の思いに関する文献検討（看護学コース）
NICUIにおけるディベロップメンタルケアの現状と課題に関する文献検討（看護学コース）
楽譜を読むことが難しい児童のキーボード演奏における効果的なアプローチの検討（作業療法学コース）
“作り笑い”と“感情からの笑い”が脳にもたらす効果（作業療法学コース）
自己、他者から“褒められる”行為による自己肯定感への影響（作業療法学コース）
楽譜を読むことが難しい児童のキーボード演奏における効果的なアプローチの検討（作業療法学コース）
“作り笑い”と“感情からの笑い”が脳にもたらす効果（作業療法学コース）
自己、他者から“褒められる”行為による自己肯定感への影響（作業療法学コース）
伸縮歪みセンサー(B4STM)を用いた健常者の音声訓練時の喉頭の動きの検討（コミュニケーション障害学コース）
伸縮歪みセンサーを用いた発声時喉頭挙上の検討（コミュニケーション障害学コース）
失語症者のAAC活用による効果およびその支援（コミュニケーション障害学コース）
実用コミュニケーション能力検査（CADL）改訂に向けた試験的検討（コミュニケーション障害学コース）
運動障害性構音障害のある人が「話しやすい」と感じるコミュニケーション環境（コミュニケーション障害学コース）
オノマトペは失語症者にとって本当に理解しやすいのか？（コミュニケーション障害学コース）
大学生のイヤホン・ヘッドホン使用の実態と使用時間の違いによる聴力への影響（コミュニケーション障害学コース）
伸縮歪みセンサー（B4STM）を用いた健常者の音声訓練時の喉頭の動きの検討（コミュニケーション障害学コース）
伸縮歪みセンサーを用いた発声時喉頭挙上の検討（コミュニケーション障害学コース）
失語症者のAAC活用による効果およびその支援（コミュニケーション障害学コース）
実用コミュニケーション能力検査（CADL）改訂に向けた試験的検討（コミュニケーション障害学コース）

IV 研究業績

【論文】

論文名	雑誌名, 巻号頁	著者名	発表年月日
Effect of continuous intake of lemon drink with added calcium during growth period on bone density.	International Medical Journal 30 (2)79-83	<u>I</u> keda H, <u>I</u> ida T, Hiramitsu M, Inoue T, <u>H</u> arada T	令和5年4月
Relationship between the characteristics of goat therapy, music therapy and naming therapy.	International Medical Journal 30(2) 84-88	Nitta K, <u>H</u> arada T, Ishizaki F, Ishizaki M, Ishizaki H, <u>T</u> suda T, Tsuda A, Nitta Y, Katsuoka H, Nitta S, Ito S, Miyazaki H	令和5年4月
音声治療手技の起声に関する研究-光電声門図(PGG)を用いた検討-	音声言語医学 64(2) 116-125	兵頭直樹, <u>田口亜紀</u> , 伊集院睦雄, 城本修	令和5年4月
高齢者の気管食道疾患 高齢者の音声障害	日本気管食道科学会会報 74(2) 98-100	田口亜紀	令和5年4月
幼児の口腔交互反復運動検査において最大能力を引き出す教示方法の検討	コミュニケーション障害学 40(1)9-16	<u>小島理恵子</u> , <u>堀江真由美</u> , <u>飯田忠行</u> , <u>小澤由嗣</u>	令和5年4月
The dynamics of deglutition during head rotation using dynamic 320-row area detector computed tomography	Laryngoscope Investig Otolaryngol 8(3) 746-753	Kazutaka Kochi, Hirofumi Sei, Yuki Tanabe, Kazunori Yasuda, Teryhito Kido, Hiroyuki Yamada, <u>Aki Taguchi</u> , Naohito Hato	令和5年5月
【手術をしない音声・構音・言語の治療】音声障害の治療 直接的音声治療 包括的な音声訓練	JOHNS 39(5) 467-470	田口亜紀	令和5年5月
Transcranial direct current stimulation to dorsolateral prefrontal cortex improves performance of obstacle avoidance gait task.	NeuroReport 34 624-628	Matsuura A, Shinoda R, Karita T, Ishikawa M, Yoshino K, <u>Mori F</u>	令和5年6月
A teacher-student based adaptive structural deep learning model and its estimating uncertainty of image data.	Handbook of Statistics Volume 49: Artificial Intelligence, pp.1-21, Elsevier	Takumi Ichimura, Shin Kamada, <u>Toshihide Harada</u> , Ken Inoue	令和5年6月
精神科病院に入院するアルコール・薬物依存症患者に対する作業療法介入プロセスモデル(OTIPM)を用いた個別プログラムの実践報告	作業療法42(3)361-368	<u>今元佑輔</u> , 徳光謙一, 谷口鷹史, 永井美咲	令和5年6月
学習に苦戦している子どもたちの理解と支援～できないにはできない訳がある～	広島県小児科医会会報 76 25-30	林優子	令和5年7月
Experiences of community-dwelling older adults participating in an occupation-focused distance exchange program: A qualitative study	Human-Computer Interaction: HCI International 2023 :494-499	Koga A, Yasuda K, Saruwatari S, Murakami H, Takeshita K, <u>Hisano S</u>	令和5年7月
実践講座 精神科作業療法のエッセンス 神経症性障害	総合リハビリテーション 51(7) 759-765	織田 靖史	令和5年7月

IV 研究業績

【論文】

論文名	雑誌名, 巻号頁	著者名	発表年月日
【高齢者の疑問にどう答えるか】喉頭・気管・嚥下領域 最近滑舌が悪くなりましたが、いい訓練法はありますか？	JOHNS 39(9) 1099-1102	田口亜紀	令和5年9月
Effect of three-hour ankle joint immobilization with an ankle foot orthosis on corticospinal excitability and ankle joint angle excursion during gait.	J Thys Ther Sci 35 777-782	Karita T, Matsuura A, Kondo Y, <u>Mori F</u>	令和5年9月
摂食嚥下障害患者における最大舌圧と栄養指標・FIM利得との関連	言語聴覚研究 20(3)157-158	石部貴之, 矢守麻奈, 村上光裕	令和5年9月
【難治性精神疾患と作業療法】(第2章)難治性精神疾患と社会生活 難治性精神疾患と自殺	臨床作業療法NOVA 20(3) 100-107	織田靖史, 林良太, 岸雪枝	令和5年9月
【難治性精神疾患と作業療法】(第1章)各精神疾患への作業療法 治療抵抗性,難治性強迫症と作業療法	臨床作業療法NOVA 20(3) 059-071	岸雪枝, 吉田賀一, 花畑愛子, 織田靖史, 松永寿人	令和5年9月
高齢人工内耳装用者のコミュニケーションストラテジー実行	コミュニケーション障害学 40, 107 - 114(2023)	今川記恵, 廣田栄子, 島崎崇史, 山内貴史, 須賀万智	令和5年9月
Effects of Increased Nasal Volume due to Topical Adrenaline on the Voice	Journal of Voice online 16 September 2023.	Ryoji Oguro , Kazuhiro Omura , Norihiko Uchio , <u>Norie Imagawa</u> , Tatsuya Kitamura, Hironori Takemoto , Nobuyoshi Otori	令和5年9月
多様性を愛おしむ社会に向けて子どもたちを地域で育む	脳と発達 55(6)412	林優子	令和5年11月
Relationship between the characteristics of Parkinsonian lumbago and efficacy of Neurotrophin.	International Medical Journal 30 (6) 305-310	<u>Harada T</u> , <u>Ishizaki F</u> , <u>Ishizaki M</u> , <u>Tsumiyama W</u> , <u>Nakanishi H</u> , <u>Ozawa Y</u> , <u>Nagano N</u> , <u>Inoue S</u> , <u>Oogame A</u> , Taniuchi R, Nitta S, Nitta Y, Katsuoka H, Nitta K	令和5年12月
地域在住高齢者と作業療法学生が参加する作業に焦点をあてた遠隔交流プログラムの効果に対する予備的検討	作業療法ジャーナル 57(12)1371-1378	古賀昭彦, 久野真矢, 安田邦彦, 村上宏樹, 竹下一樹, 猿渡進平	令和5年12月
特集 精神科作業療法最前線 感情調節困難な方への理解と実践	作業療法ジャーナル 57(13) 1422-1426	織田靖史	令和5年12月
口腔交互反復運動の発達的变化に関する予備検討 -音響分析と動作解析を用いた口唇運動の分析-	言語聴覚研究 20(4) 354-360	小島理恵子, 小澤由嗣, 岡村和典, 神田宥羽, 堀江真由美	令和5年12月

【著書】

タイトル	著者名	担当範囲	出版社	出版年月日
精神科リハビリテーション評価法 ハンドブック 第1章検査尺度に よる評価 状態-特性不安検査 (STAI), 第2章作業による評価 マインドフルネス	織田靖史	分担執筆	中外医学社	令和5年4月
高齢者の認知レベルに合わせた 作業と環境へのアプローチ～ QOL向上のための実践ヒント～	久野真矢	単著	協同医書出版社	令和5年7月
発達段階✕療育別で理解度Up! イラストと動画で学ぼう!人間発 達学	助川文子	分担執筆	診断と治療社	令和5年10月
耳は悩んでいる	今川記恵 小島博己(編)	分担執筆	岩波書店	令和5年12月

【学会発表・講演】

注)学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
臨床実習指導方法論②	織田靖史	広島県作業療法士会 臨床実習指導者研修会	令和5年5月
読み書きのスクリーニングのための検査の紹介とその実施方法	細川淳嗣	2023年度第1回発達性学習症勉強会	令和5年5月
医療福祉職の仕事とは～受験生対象	田口亜紀, 積山和加子, 小島理恵子	令和5年度県立広島大学公開講座	令和5年5月
摂食嚥下障害患者における最大舌圧と栄養指標・FIM利得との関連	石部貴之, 矢守麻奈, 村上光裕	第24回日本言語聴覚学会	令和5年6月
COVID-19感染拡大がコミュニケーション活動に与えた影響ー保健福祉系大学生と医療従事者との比較	永野叶, 矢守麻奈	第24回日本言語聴覚学会	令和5年6月
中高年ろう者の摂食嚥下機能維持に関する課題:最大舌圧測定を通して	矢守麻奈, 嘉村幸江, 唐澤美加, 大下由美	第24回日本言語聴覚学会	令和5年6月
リハビリテーションにおけるチーム医療	矢守麻奈	広島県立海田高等学校 大学出張講義	令和5年6月
子どもたちの困り感に気がつく～日常生活・特性チェックリストの紹介～	林優子	備後地区小児神経発達症に伴う睡眠障害を考える講演会	令和5年6月
親子の絆づくりプログラム「赤ちゃんがきた!」の子育てへの影響	鴨下加代, 土路生明美, 伊藤良子, 加藤裕子	第70回日本小児保健協会学術集会	令和5年6月
BPファシリテーターが捉えた親子の絆づくりプログラム「赤ちゃんがきた!」実施の影響と課題	土路生明美, 鴨下加代, 伊藤良子, 加藤裕子	第70回日本小児保健協会学術集会	令和5年6月
乳幼児期の子育て・親育ち支援プログラム参加者の特徴	伊藤良子, 土路生明美, 鴨下加代, 加藤裕子	第70回日本小児保健協会学術集会	令和5年6月
発達外来を受診する学童への振り返りシートを用いた肥満指導の効果	鴨下加代, 土路生明美, 林優子	第70回日本小児保健協会学術集会	令和5年6月
乳幼児を育てる保護者のコロナ禍の生活の工夫	加藤裕子, 伊藤良子, 鴨下加代, 土路生明美	第70回日本小児保健協会学術集会	令和5年6月
口腔交互反復運動の発達的变化ー音響分析と動作解析を用いた口唇運動の分析ー	小島理恵子, 小澤由嗣, 岡村和典, 神田有羽, 堀江真由美	第24回日本言語聴覚学会	令和5年6月

【学会発表・講演】

注)学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
メラトベルが有効であった非24時間睡眠覚醒リズム障害の1例	林優子	令和5年第3回三原市小児科医会	令和5年7月
コミュニケーション支援技法②③④ コミュニケーション支援実習①	矢守麻奈	令和5年度広島県失語症者向け意思疎通支援者養成研修 講師(オンライン)	令和5年7月
自分でできるストレスケア —いまここに意識を向ける—	織田靖史	西川病院 心理教育公開講座	令和5年7月
Extraction of the pull force from inertial sensors during the pull test in Parkinson's disease: An inter- and intra-rater reliability study.	Ryoma Taniuchi, Shusaku Kanai, Amane Hara, Kazuya Monden, Hiroaki Nagatani, Tsuyoshi Torii, Toshihide Harada	The 6th World Parkinson Congress (Barcelona, Spain)	令和5年7月
読み書きを評価するための検査の紹介とその実施方法	細川淳嗣	2023年度第2回発達性学習症勉強会	令和5年7月
マインドフルネスを体験する	織田靖史	愛媛県マインドフルネスを学ぶ会	令和5年7月 令和5年8月 令和5年12月
マインドフルネス実践講座 —最高のパフォーマンスへの第1歩—	織田靖史	島根リハビリテーション学院 公開講座	令和5年8月
スポーツなど余暇活動支援	織田靖史	日本作業療法士協会 専門作業療法士取得研修会 精神科急性期IV, VI	令和5年8月
特別な支援を要する幼児児童生徒の見取りと支援	細川淳嗣	2023年度三原市発達障害者支援コーディネーター研修	令和5年8月
発達障害児・者の正しい理解と支援	細川淳嗣	2023年度三原市発達障害者支援コーディネーター研修	令和5年8月
読み書きの困難さと合理的配慮について知る	細川淳嗣	令和5年度県立広島大学公開講座GIGAスクール時代における読み書きに困難を抱える児童・生徒への学習支援	令和5年8月
読み書きの困難さへの支援とICT機器	細川淳嗣	令和5年度県立広島大学公開講座GIGAスクール時代における読み書きに困難を抱える児童・生徒への学習支援	令和5年8月

【学会発表・講演】

注)学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
支援につかえるアプリやWebサービス	細川淳嗣	令和5年度県立広島大学公開講座GIGAスクール時代における読み書きに困難を抱える児童・生徒への学習支援	令和5年8月
支援や合理的配慮の実際	細川淳嗣	令和5年度県立広島大学公開講座 GIGAスクール時代における読み書きに困難を抱える児童・生徒への学習支援	令和5年8月
Research on play with pet robots	助川文子	Empowering Technology on Human Occupation インドネシア	令和5年8月
ヘルス・コミュニケーション入門	矢守麻奈	県立広島大学公開講座	令和5年8月10, 17, 24, 31日
病気と向き合う医療福祉職	森大志, 飯田忠行, 池内克馬, 永野なおみ	令和5年度県立広島大学公開講座	令和5年9月
大人になった彼らからのメッセージ	坊岡峰子	中華溝通障礙教育學會二十週年會暨學術研討會議程	令和5年9月
高齢者に生じるコミュニケーション障害の理解とその支援 ～言語聴覚士の視点から～	坊岡峰子・渡辺眞澄・長谷川純・津田哲也・三上裕子	令和5年度県立広島大学公開講座	令和5年9月
失語症・認知症のある方とより良いコミュニケーションをとるために ～言語聴覚士の視点から～	坊岡峰子・中村文・三上裕子	令和5年度県立広島大学公開講座	令和5年9月
パーキンソン病のPull testにおける慣性センサを用いたpull forceの定量化と信頼性の検討	谷内涼馬, 金井秀作, 原天音, 門田和也, 長谷宏明, 鳥居剛, 原田俊英, 熊野宏昭	第21回日本神経理学療法学会学術大会	令和5年9月
学習面への合理的配慮とそれが 必要な理由	細川淳嗣	2023年度第3回発達性学習症勉強会	令和5年9月
学習への合理的配慮に使えるICT 機器やサービスの演	細川淳嗣	2023年度第3回発達性学習症勉強会	令和5年9月
マインドフルネス入門	織田靖史	県立広島大学公開講座 メンタルヘルスの視点から考えるマインドフルネス講座	令和5年9,10月
伸縮ひずみセンサーを用いた発声時における喉頭挙上の検討	田口亜紀, 佐原由真, 襲地紗菜	第68回日本音声言語医学会総会・学術講演会	令和5年10月

【学会発表・講演】

注)学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
地域の子もたちが豊かに育つための保護者支援	林優子	尾三圏域連絡会議相談支援専門員研修会	令和5年10月
ソーシャルフットボール活動について -1つのボールからつながる可能性-	織田靖史	信州精神科作業療法勉強会 (SPOTの会) 研修会	令和5年10月
インターネット調査に基づく高齢者の作業参加と社会的フレイルの関連性分析	田中睦英, 高木雅之	第17回日本作業療法研究学会学術大会	令和5年10月
オンラインでの音声治療の効果-訓練頻度についての検討-	田口亜紀	第74回日本気管食道科学会総会・学術講演会	令和5年11月
失語症のある人とのコミュニケーション ~言語聴覚士が伝えたい支援のヒント~	坊岡峰子	主任介護支援専門員を対象としたスキルアップ講座「スーパーバイザー・レベルアップ講座」	令和5年11月
D&Iの観点から再考する作業療法の過去・現在・未来	久野真矢	第17回島根県作業療法学会	令和5年11月
認知レベルと対応したアクティビティケア・マトリクスの開発	久野真矢	第57回日本作業療法学会	令和5年11月
高齢者のコミュニケーション障害と摂食嚥下・栄養障害 ~言語聴覚士が伝えたい支援のヒント~	矢守麻奈	県立広島大学令和5年度履修証明プログラム主任介護支援専門員を対象としたスキルアップ講座「スーパーバイザー・レベルアップ講座」	令和5年11月
探究」の質を高めるための自分自身を知ることで他者と話し合うことの可能性	織田靖史, 池内克馬, 坂本千晶, 増田久美子	第57回日本作業療法学会	令和5年11月
作業療法士を対象とした自殺対策・自傷行為に関する研修会の効果の検証	林良太, 岸雪枝, 川村明代, 湯川徹, 織田靖史	第57回日本作業療法学会	令和5年11月
認知症治療病棟における自宅への退院支援の現状と課題 -アンケートを用いた実態調査-	坂本千晶, 西田征治, 織田靖史, 池内克馬, 増田久美子	第57回日本作業療法学会	令和5年11月
多様性を愛おしむ社会で子どもたちの自分を生かす力を地域で育む	林優子	令和5年度三原カウンセリング研究会公開講座	令和5年11月
軽度知的障害と発達障害がある若年成人の就労意思決定過程	助川文子	第57回日本作業療法学会	令和5年11月

【学会発表・講演】

注)学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
企画セミナー 作業に焦点をあてた実践を可能にするコツー スクールAMPSー	古山千佳子	第57回日本作業療法学会	令和5年11月
病気と向き合う医療福祉職	田口亜紀, 佐藤勇太, 今川記恵, 鴨下加代	令和5年度県立広島大学公開講座	令和5年12月
意味記憶検査の作成	政清莉穂, 荻生理紗, 井上真弥, 浦島莉央, 浜田友美, 高瀬菜摘, 辰巳格, 渡辺眞澄	第25回認知神経心理学研究会	令和5年12月
動詞の過去形生成における一貫性効果、タイプ頻度効果	荻生理紗, 仁井山志穂, 西河杏莉, 井上真弥, 辰巳格, 渡辺眞澄	第25回認知神経心理学研究会	令和5年12月
動詞基本形と意味から過去形生成した時の一貫性効果	井上真弥, 荻生理紗, 辰巳格, 渡辺眞澄	第25回認知神経心理学研究会	令和5年12月
ストレスとの付き合い方と対応ー マインドフルエンスの視点を含めてー	織田靖史	広島県高等学校保健会 尾三地区部会	令和5年12月
青年版・余暇興味プロフィールと健康そして日本版感覚プロフィール短縮版の関連について	助川文子	第40回日本感覚統合学会	令和5年12月
音声障害のリハビリテーション	田口亜紀	令和5年度音声言語機能等判定医師研修会	令和5年12月
運動機能障害を併発した機能性発声障害3例	兵頭直樹, 田口亜紀, 玉井東代, 河島邦宏	第38回西日本音声外科研究会	令和6年1月
メンタルヘルスの視点から考えるマインドフルネス	織田靖史	豊田・竹原学校保健会竹原ブロック 養護教諭部会 研修会	令和6年1月
「リハビリテーションにおけるチーム医療ー食べる・飲み込む(摂食嚥下)機能の障害を中心にー」	矢守麻奈	広島県立吉田高等学校 高大連携講座	令和6年2月
全領域のOTに役立つ マインドフルネス×作業療法	織田靖史	新潟県作業療法士会 精神科ステップアップ研修	令和6年2月
彩り豊かな人生を送るためにーアルコールによる認知症、身体への影響を予防するための基礎知識ー	今元佑輔	北方老人クラブ希望会認知症予防学習会	令和6年2月

【学会発表・講演】

注)学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
読むことに困難をかかえる児童の支援におけるデージー教科書導入促進のための工夫	細川淳嗣	日本障害者リハビリテーション協会主催 令和5年度 音声教材の効率的な製作方法等に関する調査研究事業 「デージー教科書事例報告会」	令和6年2月
伸縮ひずみセンサーを用いた音声訓練時における喉頭動態の検討	田口亜紀, 婁地紗菜, 佐原由真	第36回日本喉頭科学会総会・学術講演会	令和6年3月
医療福祉職の仕事とは～受験生対象	森大志, 織田靖史, 永野なおみ, 土路生明美	令和5年度県立広島大学公開講座	令和6年3月

【外部資金】

タイトル	代表研究者名	制度名	研究期間
学齢期にある肥満症の発達障がい児への運動習慣に焦点を当てた看護介入の検討	鴨下加代(分担:林優子, 土路生明美)	科学研究費 (基盤研究C)	平成29～令和5年度
「身体フレイル」は「脳フレイル」を予測するか? 安静時脳波のネットワーク解析	田中睦英	科学研究費 (基盤研究C)	平成30～令和5年度
失語症・認知症者でも実施可能な語彙・意味的知識構造に焦点を当てた評価法の開発	津田 哲也	科学研究費 (若手研究)	平成30～令和5年度
脳梁を介した大脳皮質一次運動野からの運動出力と二足歩行	森大志	科学研究費 (基盤研究C)	平成31～令和5年度
発がんリスク遺伝子とライフスタイルに着目した小児がん経験者の生活に関する探索研究	土路生明美(分担:鴨下加代)	科学研究費 (基盤研究C)	令和元～令和5年度
動詞活用規則のエニグマ-多すぎる規則は使われない	渡辺 眞澄	科学研究費 (基盤研究C)	令和2～令和5年度
失語症者の実用的コミュニケーション能力に着目した支援プログラムの開発と活用	坊岡峰子	科学研究費 (基盤研究C)	令和3～令和5年度
肢運動に伴う皮質運動領野の活動性増強メカニズムの検証	森大志	科学研究費 (基盤研究C)	令和4～令和6年度
発達課題のある子どもの教育選択に向けて保護者への適切な情報提供のあり方の検討	林優子	科学研究費 (基盤研究C)	令和4～令和6年度
口腔交互反復運動を用いた発達性協調運動障害のスクリーニングと評価における有用性	小島理恵子	科学研究費 (基盤研究C)	令和4～令和6年度
経頭蓋磁気刺激と脳波周波数解析によるコグニティブ・フレイルティの神経基盤の解明	田中睦英	科学研究費 (基盤研究C)	令和4～令和6年度
こどもセルフケア理論を用いた肥満傾向の発達障害児の看護外来プログラム	鴨下加代(分担:土路生明美)	科学研究費 (基盤研究C)	令和4～令和7年度
認知症患者に効果的な早期退院支援プログラムの開発に向けた実践的研究	坂本千晶	科学研究費 (基盤研究C)	令和4～令和7年度
本邦における人工内耳の費用対効果評価:リハビリテーション科学と公衆衛生学との連携	今川記恵	リハビリテーション連携科学学会若手研究助成金	令和5～令和6年度
小児がん児の体力・機能低下に対する医療職者の継続的な復学訪問支援による連携構築	広島大学医系科学研究科祖父江育子(分担:土路生明美)	科学研究費 (基盤研究C)	令和5～令和7年度
当事者参加型研究 自閉スペクトラム症作業療法「一般向けガイドライン解説」の作成	助川文子	科学研究費 (基盤研究C)	令和5～令和7年度
意味記憶障害の有無や重症度を定量的に評価する新たな診断モデルの開発	津田 哲也	科学研究費 (基盤研究C)	令和5～令和10年度

V 従事者名簿

医師

小児科	林 優子
内科	安武 繁
精神科	藤巻康一郎
耳鼻咽喉科	田口垂紀
神経内科	原田俊英
整形外科	住居広士
脳神経外科	森 大志

看護師

看護師	土路生明美
	鴨下加代
看護師（専任）	井上セツ子
	大亀昭子
医療事務受付	田坂春美
	村田智子

医療福祉職

看護師	土路生明美
	鴨下加代
理学療法士	金井秀作
	田中聡
	小野武也
	島谷康司
	長谷川正哉
	梅井凡子
	西上智彦
	積山和加子
	金指美帆
	佐藤勇太
作業療法士	大古場良太
	岡村和典
	吉川ひろみ
	久野真矢
	西田征治
	古山千佳子
	高木雅之
	助川文子
	田中睦英
	織田靖史
	坂本千晶
	池内克馬
	増田久美子
今元佑輔	
言語聴覚士	堀江真由美
	坊岡峰子
	細川淳嗣
	小澤由嗣
	長谷川純
	矢守麻奈
	佐藤紀代子
	渡辺眞澄
	津田哲也
	中村 文
	小畠理恵子
今川記恵	
放射線技師	飯田忠行
社会福祉士	永野なおみ